

目指す将来像

地域に若者が増えた持続可能な人口構造のもと、デジタル技術の活用などにより、地域で安心して生活ができる環境が維持され、地域に多様な仕事があり、誰もが将来に希望を持って暮らし続けることができる、活力ある中山間地域

〈数値目標(10年後)〉
「目指す将来像」の実現のために
目指すべき重要な目標

- ①若者のうち、減少、流出の著しい**34歳以下の人口**について、中山間地域のすべての市町村で**令和4年よりも増加**を目指す
- ②**出生数**について、中山間地域のすべての市町村で**令和4年よりも増加**を目指す

テーマごとの10年後の姿と数値目標

柱1 若者を増やす

第1策 若者の定着・増加とづくり

県外からの移住や地元での定住により若者、特に女性が増加し、産業や地域活動等の担い手として活躍している。多くの子ども達が、地元で学びながら地域と関わり、郷土への誇りと愛着が生まれている。



「若者の所得向上の推進」の視点を反映させて柱の内容を見直し

〈数値目標(10年後)〉

- 県外からの年間移住者数(※)：5,000人以上 (R4：1,185組1,730人)
- 地元高校への進学率：50% (R5年度入学31.3%)
- 県内就職率(※)：高校生75%、専門学校生80%、県内大学生42%、県外大学生28%
〔R5.3卒実績：高校生71.6%、専門学校生72.8%、県内大学生36.0%〕
県外大学生21.3%
- すべての市町村で20～34歳の年齢層における女性の割合がR2全国平均(49%)を上回る
- 婚姻件数の増加 (R4：972組)

柱2 暮らしを支える

第2策 生活環境づくり

生活用水や生活用品、移動手段等、暮らし続けるために必要となる生活環境が維持されている。



〈数値目標(10年後)〉

- 居住地における買い物手段の確保 100%
- 居住地における移動手段の確保 100%
- 居住地における医療の提供 100%
- 居住地における在宅介護サービスの提供 100%

第3策 安全・安心の確保

地域での見守り機能が維持されるとともに、地理的条件が不利な地域においても、医療・福祉サービスへのアクセスが確保されている。また、地域の防災力が高まっている。



柱3 活力を生む

第4策 集落の活性化

集落活動センターや「小さな集落」等、住民主体の組織が中心となり、多様な人材が交流しながら集落の活性化に向けた取り組みが行われている。



〈数値目標(10年後)〉

- 集落活動センター開設数：95カ所 (R5.6月末時点 66カ所)
- 活動を継続している無形民俗文化財(国・県・市町村指定)の数：120件 (R4年度：95件)
- 世界無形文化遺産の登録数：11件(風流踊、神楽) (R4末：0件)

第5策 地域の伝統的な祭りや民俗芸能の維持・継承・活用

地域の伝統的な祭りや民俗芸能が継続して催され、地域が賑わい、次世代へ引き継がれている。



柱4 しごとを生み出す

第6策 若者に魅力ある仕事の創出(地域の基幹産業の魅力向上)

農林水産業など地域の基幹産業において、高付加価値型経営への転換が図られ、若者が担い手として活躍している。



〈数値目標(10年後)〉

- **新** 1人あたり県民所得：全国中位(20位台)
- 就業人口(15～64歳)の増加 (R2：129,591人)
- 女性就業者数(15～34歳)の増加 (R2：12,848人)
- 起業件数の増加 (R2：262件※) ※起業を含む開設事業所数

第7策 若者に魅力ある仕事の創出(起業等による新たな雇用の場の確保)

移住者や地域の若者等の起業や継業により、地域の魅力や活力が高まっている。また、若者から人気が高いIT・コンテンツ企業等の立地や、都市部から移住しリモートワークをする若者が増えている。



横串 第8策 デジタル技術の活用

中山間地域のニーズに合った通信環境が整備され、日常生活の不便さや担い手不足等、中山間地域の様々な課題を解決するためにデジタル技術の活用が進んでいる。



〈数値目標(10年後)〉

- 居住地等におけるブロードバンド整備率：100% (R4末：99.13%)

※下線は、今回追加・見直しを行ったもの

(※)付きの数値目標については、達成度の評価にあたって県全体の数値を使用する。